

市民活動サポートセンター いなぎ

ニューズレター

No.32

2010.6.15

発行/NPO法人

市民活動サポートセンターいなぎ

事務局/〒206-0802

稲城市東長沼2112-1

稲城市地域振興プラザ1F

市民活動サポートセンター内

電話 042-378-2112

FAX 042-378-6971

E-mail:info@i-inagi-support.org

http://www.i-inagi-support.org/

ハッピーリタイアメント講座⑨

地域があなたを待っている

～大人と子ども世代をつなぐ居場所づくり～

これから定年を迎える方、子育てが一段落した方、地域で何か活動をしたい方々に、地域社会に第一歩を踏み出す手がかりを提供します。

今回は市内で子どもたちにかかわる活動をしている方々のお話を中心にします。ほかにも福祉活動などいろいろな分野で活動している方も多数参加しますのでお誘い合わせの上、お気軽にご参加ください。

●日 時/平成22年7月3日(土)

午後1時半～4時

●会 場/稲城市地域振興プラザ 4階

●参加費/無料

プログラム

第1部 講演 居場所《探し》から 居場所《づくり》まで

～地域の子どもたちが豊かな体験の出来る場所づくりと、そこに定年退職した人たちが関わる、世代をつなぐ居場所～

講師 浜住治郎氏

元稲城市社会教育主事・生涯学習課長・大丸在住

瀬徳子さん) ○レンタル実験ボックス(小沢洋一さん) ○いなぎFFネットワーク(廣田雅恵さん)
○稲城おもちゃの病院トトロ(小林北海さん) ○親子で遊ぶわらべうた(森しのぶさん)

第2部 活動団体紹介と そこで活躍されている方のお話

○おはなしの城(高橋公美さん)

○青少年育成若葉台地区委員会(高

第3部 交流会

第2部の各団体以外に下記のブースが用意され活動紹介をします。

社会福祉協議会/はつらつワーク/
文化センター/協働推進課/市民活動サポートセンターいなぎ

【共 催】 NPO法人市民活動サポートセンターいなぎ/稲城市社会福祉協議会/
稲城市立公民館/稲城市協働推進課

【問合せ】 市民活動サポートセンター(市役所協働推進課内)
電 話 042-378-2112

市民活動支援基金による 今年度の助成団体は...

5月31日に審査会が開かれ、今年度は次の8団体に助成することが決まりました。

■YOSAKOIソーラン事務局

(代表 宮森京子さん)

- ①スタート助成 ②20,000円
- ③サポートセンター市民活動支援基金
- ④市内のYOSAKOIソーラングループを集結し、市民祭など稲城市をPRできる事業に参加

■南ちゃんの会

(代表 和田さつきさん)

- ①スタート助成 ②20,000円
- ③サポートセンター市民活動支援基金
- ④雑木林の下草刈りや樹木の伐採など、里山保全の手伝いをする活動

■千一龍舞隊 稲城

(代表 田中登美枝さん)

- ①スタート助成 ②50,000円
- ③サポートセンター市民活動支援基金
- ④姉妹都市である女満別龍舞隊と組んで札幌YOSAKOIソーラン祭に出場するほか、市内老人ホームなどへの慰問活動

■保育に関する学習会

(代表 宮 貴子さん)

- ①スタート助成 ②30,000円
- ③NPO《子どもの森》芸術文化振興基金
- ④よりよい保育環境の実現のため、ビジョンや価値観を共有し学習する講習を企画・実施

- ①＝助成の種別 ②＝助成額
- ③＝基金の資金提供先
- ④＝活動の目的など

■ヘルス&ウェルネスネットワーク

(代表 佐々木亜矢さん)

- ①スタート助成 ②50,000円
- ③NPO《子どもの森》芸術文化振興基金
- ④親子の学び合いのネットワークを構築することを通じて、持続可能で豊かな地域社会の形成に寄与する活動

■ココカゲン

(代表 村本聖子さん)

- ①スタート助成 ②20,000円
- ③NPO《子どもの森》芸術文化振興基金
- ④「ココロ」と「カラダ」が「ゲンキ」になる子育て、地域を実現する活動

■稲城知的障がい者支援ネットワーク

(代表 川本安岐夫さん)

- ①ステップアップ助成 ②25,000円
- ③NPO《子どもの森》芸術文化振興基金
- ④市内知的障がい者に対する様々な支援、特に就労や雇用につながる支援と安心して生活していける環境づくりを目指す活動

■クラフトボランティアJOY

(代表 岩崎寛さん)

- ①ステップアップ助成 ②50,000円
- ③NPO《子どもの森》芸術文化振興基金
- ④クラフトを通じたボランティアの養成、クラフトボランティアの派遣、クラフトの普及啓発活動

NPO《子どもの森》芸術文化振興基金とは

地域の活性化と教育力の充実をめざし、子どもたちの芸術文化活動および健やかな育ちの環境づくりに寄与する芸術文化の振興を目的に設けられた基金です。(代表：荒木重雄さん、専務理事：角田亨さん)

四月

「宝の山 農を探る」

話し手：本間 惇さん

京都から30年前に平尾に移って来られた本間さんは、大学で教えることはあっても、地元で話をするのは初めてとか。

この日は知っておきたい農業と、食に関する知識をクイズ形式を取り入れながら楽しく話していただきました。

例えば、日本の伝統的農業に科学的発想を取り入れ、空飛ぶカボチャ、あま〜いタマネギなどの開発、スーパーで鮮度の良い野菜の選び方とその正しい保存方法などでした。

ほかにも、なぜ産地偽装をするのか、地球温暖化の話、食の安全、現在の農業の見直しと農業の大切さ等々・・・話は多岐にわたり、豊かな経験をもとに、分かりやすい話が進み、あつという間の2時間でした。(中村)

六月

「私の戦前・戦後と教育」

話し手：中溝 恣さん

教員生活を省みて「教員になって良かったと思う。生徒が社会のために生きていく教育や生徒の能力を引き出す教育に変わったから」とのことでした。

というのも、ご自分が学芸大の前身の師範学校で学んでいた頃は、全寮で軍事教練もあり軍隊と同じような生活であったこと、また戦後、14~5歳で満蒙開拓少年義勇軍に応募し引き上げてきた人たちの生活が大変だったこと、同窓の先輩がB級戦犯になったことなど、心を痛めた出来事がいろいろあったからだそうです。

ほかにも稲城第一小学校や第二小学校の生い立ち、小学生の頃は出席簿が生年月日順だったことなど、今では信じられないようなお話をいろいろしていただきました。また、尋常小学校の音楽や「サイタサイタサクラガサイタ」というようにカタカナだけの国語の教科書も見せていただき、とても興味深かったです。

お話をお聞きして、衣食住が足りている現代は平和であり、戦時中の苦勞はさせたくない、頑張ってきた人たちのお陰だと思いました。(稲垣)

「社会貢献活動 支援制度策定会議」

5月24日にスタート

市民活動サポートセンターいなぎでは、稲城市からの委託を受け、社会貢献活動支援(ポイント)制度の仕組みを検討することになり、その第1回目の策定会議が5月24日に持たれました。

委員は学識経験1、市民公募2、市職員2のほか福祉、自治会、PTA、防災、体育、商店会、芸術文化、環境などの各分野で活動する団体から推薦をいただいた12の計17人で構成されています。

★ この日は初めての会合ということで、各委員から自己紹介をしていただいた後、座長の選出を行いました。

★ その結果、学識経験委員である荒木重雄さんが全員

一致で座長に選出されました。

★ その後、荒木座長の司会で議事に移りました。

①社会貢献活動支援制度を導入しようと思った経過と趣旨、②同様な制度を導入している他自治体の状況の説明が事務局からなされた後、③フリーな形での意見交換が行われました。

★ 意見交換の中では、この活動はポイントになるがこれはポイントにならないというのでは市民活動を進める上で困るので、どんな活動にポイントを付すのか、その線引きが難しいといった課題も出されました。

★ そうした課題を克服して、いかに地域の活性化につながる制度にしていけるかが、話合いの大事な視点になってくるものと思われまます。(小林) ※これから会議の様子を逐次報告していく予定です。

